

キウイフルーツ新品種「さぬきエンジェルスイート」の育成

福田哲生・片桐孝樹・末澤克彦

香川県農業試験場研究報告 第66号(2016年3月) 37-43

1. 「さぬきエンジェルスイート」は、香川県農業試験場府中果樹研究所保存の79-1-2(静岡県の生産者から導入した雌系統)に中国系キウイフルーツの雄系統(保存系統名:FCM-1)を交配して育成した品種である。2013年7月29日に種苗法に基づき、第24497号として品種登録された。
2. 樹勢は中であり、樹体はやや小さい。葉の大きさは中に分類される。葉柄の長さは長く、アントシアン着色は強い。花穂の着生数は中であり、側花の数はやや多い。育成地(香川県坂出市)における発芽期は3月中下旬、開花期は5月上中旬、成熟期は10月中旬であり、いずれも対照品種である「レインボーレッド」より遅い。
3. 果皮は暗褐色、果形は広楕円形である。果実は100g程度とキウイフルーツでは中庸な大きさである。果実表面毛じの密度は粗で、長さは短く、また脱落しにくい。果肉は、種子外側が黄緑色、種子周辺が赤褐色を呈するため、果肉断面の色彩コントラストが美しい。果肉種子周辺の赤褐色の占める割合は、「レインボーレッド」より少ない。糖度計示度は18~20と高く、クエン酸換算含量は0.40g/100mL程度と低い。肉質が密で軟らかく果汁も多く、加えて他の品種にない独特の旨味があることから、食味は極めて良好である。追熟はやや易で、エチレン処理後約8~12日で可食適期となる。貯蔵性はやや短く、5℃貯蔵で2~3ヶ月程度である。
4. 概ね県下のキウイフルーツ産地に導入可能と考えられるが、品質の良い果実を生産するためには、高温や土壤乾燥などの樹体ストレスが少なく、排水が良好で耕土の深い土壤での栽培が望ましい。

キーワード：キウイフルーツ, 新品種, さぬきエンジェルスイート